

# 波紋

1993 **3** 第93号



## アメリカ研修に決まって

今年6月のアメリカ研修に選ばれ、今、とてもうれしく、わくわくしています。

まだ行ったこともないアメリカ大陸、昔アメリカって言うと、ジーンズ、白のTシャツ、袖にはキャメルのタバコ、車はキャデラックなどでしょうか思っています。近年、米や自動車などの輸出入問題が大きく取り上げられたり、銃や覚醒剤、失業者問題など、病める大国といったような報道もされています。しかしアメリカはでかい、G7やPKOでは一番の発言力を持ち、世界の先導になっています。いろんな人種、ちがった習慣をもった人々がつくっている文化、それをみてみたい。また、アメリカアキレスさんや20センチユリーさんも見学させていただき、むこうの生産のしかた、経営のしかたなどみたいことが山ほどあります。多民族の作った文化はすごいと思う。でも歴史が作った自然はもつとすごいんじゃないかと思う。

6月まであと4ヶ月、人としていろんな事を受け入る大きな視野や基礎をしっかりともち、約10日間の研修が、5年10年分ぐらいの経験になるようにしてみたい。

10日間抜けてしまう間、お客様や会社のみなさんにご迷惑をかけてしまいますが、よろしくお願い申し上げます。ご迷惑をかけた以上人間としてでかくなつて帰ってきます。

最後に私にこのようなチャンスを与えてくれた会社に感謝の気持ちでいっぱいです。そしてこのチャンスを大きく生かせる人間になりたいと思います。

加藤 雅 昭

### ●交差点

## 「研修・改善委員会」

「共育元年」をスローガンに出発した今年、新入社員を迎える時がやって来ました。4名（男1名・女3名）が新たにモーリンマンになります。一泊研修も含め、稲葉研修委員長のもと準備が進められています。

新入社員に期待することより、新加入による先輩社員の意識の変化に、多くを期待しています。「教育は共育なり」の言葉通り、教える側の方が勉強しなくてはなりませんし、学ぶ事が多いのです。皆が一緒になって会社とは、商売とは、社会人とは、愛とは何か？を探索して行きたい。

会社の理念である、社会性・人間性・科学性の三本柱を再確認し、自分の子供と同世代の新人を迎え、反省する事が多い最近の私です。

不況下の中、我社の改善委員会は山口部長を中心に8サークルのリーダーが頑張ってくれ、着々と効果を上げています。今月27日には発表会がありますので、とても楽しみです。省エネに関する事、報連相に関する事、段取りの方法、朝令の改善等々、本来トップの人間が指示すべき事を委員会自ら自主的に良い方向へ導びてくれています。本当にありがたい事です。

今の改善運動を継続し、不況風を吹き飛ばし、明かるい強い体質の会社にしましょう。

森 信 之

## トシ君の一方通行

## 「時間が無い」

時間が無いという位、忙しいのは結構な話です。でも、やるべき事が出来ない場合、時間が無い無かったというのは、弁解がましい場合が多いです。

本当に時間が無かったのか、それとも優先順位がおかしかったのか分析してみるべきです。それでも無いという場合は本当に自分でしかこの仕事は出来ないのでしょうか。であるとするならば、皆に分担する、もしくは任せるとか方法はないのか。この場合気をつけるのは、任せるというのは任せ放しではないという事でありませう。

さて、さて、それでも時間が無い。これはさぞかし、目茶苦茶に効率が上がっている筈ですが如何でしょうか。

優先順位・分担、これでもかなり時間が出来る筈ですが、気をつけなくてはならないのは、やる気が無い場合の弁解言葉だけには使わないで下さい。



木村 英利

## 森松クインテット

## 「家裁の人」

(先月よりドラマ化されている)

一月の幹部会にて、社長より家裁の人を知っているか?

私は、聞いたこともなかった。家裁の文字からすると育てるは、理解できた。

社長・常務より簡単に内容を説明してもらった。帰宅時に(コミックス)本を買って読んでみた。

主人公 桑田判事。

森松マン精神の、1と2を完璧に実行していると感じた。

自分の意見を持ち、相手の気持ちを考えて、いろいろな問題(人の心)を、大好きな花とか木にたとえ、心から優しく説得する。非常に困難な、ことだと思いが部下・嫁さん・子供のいる男は、心がけなければ男として、人間としてはずかしい気がした。

一冊 五〇〇円 ヤスイ(安井)



光田 昭男

## 喜怒哀楽

## 「自己啓発」

今年の目標に「自己啓発」と書きました。

自分自身を変えて、自分との約束を守る事の難しさをつくづく感じておりますが、現在は小さな事、身近な事から実行出来る事は継続しております。

- ①新聞を読む時間をしっかりとる(朝刊・夕刊)
- ②月一冊の読書
- ③ワープロ技術の習得
- ④後輩の指導、育成に努める
- ⑤仕事の中のくわえタバコはやめる 等、やる事は沢山あるのですが、やはり自分自身との戦いに負けては人間の成長も無いと思います。社長に「信念」という教訓をもらいましたので皆様も読んで自分に勝つ強い信念を持つて下さい。

「信念」

もし、あなたが負けると考えるなら、あなたは負ける。

もし、あなたがもうダメだと考えるなら、あなたはダメになる。

もし、あなたが勝ちたいと思う心の片隅でムリだと考えるなら、あなたは絶対勝てない。

もし、あなたが失敗すると考えるなら、あなたは失敗する。

世の中を見てみる、最後まで成功を願った人だけが成功しているのではないかと。

すべては「人の心」が決めるのだ。もし、あなたが勝てると思えるなら、あなたは勝つ。

向上したい、自信を持ちたいと、もしあなたが願うならあなたはその通りの人になる。

強い人が勝つとも限らない。すばしい人が勝つとも限らない。私はできる、そう考えている人が結局勝つのだ。

# 突撃インタビュー

今月号から、社員の御家族にも御協力して頂いている「突撃インタビュー」がまたはじまります。この号のあと、他六家族を予定していますのでお楽しみに……。

## 西田課長編



まず今月号は、西田課長編です。

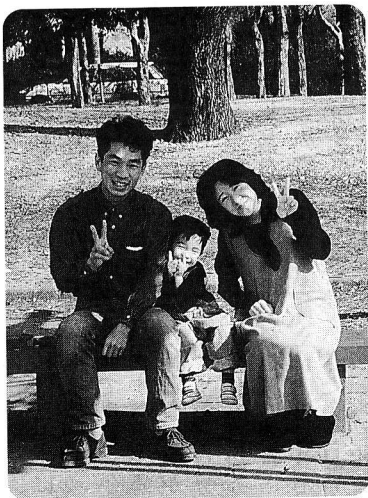
元森松マンの優しくて素敵な奥様とやんちゃ盛りの大貴くんの三人家族で、もうすぐ2人目の赤ちゃんも産まれてきます。大貴くんのやんちゃぶりは、西田課長の幼少時代にそっくりとか――。

- Q 幼い頃になりたかった職業は？
- A タレント。
- Q 昔にもどれるとしたら、いつの頃（何歳の頃）にもどりたいたいですか？
- A 小学生（4年生）  
勉学に励むため。
- Q 今まで一番印象に残っていることは？
- A アメリカ研修旅行でのヨセミテ公園。



- Q ドラエもんが目の前に現れたらどうしますか？
- A 空が飛べる道具をお願いする。
- Q これぞ名古屋（森松）一番と自慢できるもの（こと）は？
- A 本社ビル。
- Q ふと、「幸せだな」と感じるときは？
- A 子供とお風呂に入っている時。
- Q 家族の方に一言。
- A 父ちゃんは会社だよ。  
（ん？どういう意味なのでしょう）
- Q ちはるの奥様へインタビュー
- A 結婚してから御主人が変わったところは？
- A 結婚してからというより、子供が産まれてから性格が丸くなったところ。  
（目つきも優しくなった）

- Q 浮気の現場を発見したら？
- A とりあえず「無視」。でも絶対許せません。
- Q 御主人に一言。
- A 体につけてお仕事頑張ってね♥
- ――御協力有難うございました。



左から、西田課長、大貴くん、奥様。

平成5年 3月の社内行事

- 1日(月) 亀塾 十八時より
- 〃 宮本さん誕生日
- 4日(木) 素麺会 十七時より
- 6日(土) 第一土曜日休み
- 坂井田さん誕生日
- 12日(金) 成瀬係長誕生日
- 〃 松井さん誕生日
- 13日(土) 第二土曜日休み
- 15日(月) 西田課長誕生日
- 16日(火) 改善委員会  
十八時より
- 18日(木) 山内さん誕生日
- 20日(土) 第三土曜日休み
- 22日(月) 金子清道さん入社  
生産会議 十八時より
- 24日(水) 木村常務誕生日
- 25日(木) 経営会議 十四時より
- 〃 営業会議 十八時より
- 〃 新入社員研修  
31日迄
- 27日(土) 社員一泊研修会
- 28日(日) オレフィン記念日
- 〃 豊作会 十八時より
- 29日(月) 蓮根会 十八時より
- 30日(火) 久保田さん誕生日

特別寄稿 森松と私

私が初めて森松さんを訪ねたのは昭和四十四年だったろうか二年だったろうか。「それは森松（以下親しみをこめてこう呼びます）に頼んだら」と誰かに教えられて、タオル入れの生地を注文に行きました。

会って呉れたのは初老の男でした。男は言いました。「ええよ作ったよ」ほく（以下使い馴れた言葉で）はその乱暴な物言いに呆然となりました。と同時に妙に得心している部分もありました。ビニール屋は押しなべてこう云う言葉遣いをするものなのかと。近くの席で少女が電話をかけていました。「いいわ、あなたにお任せするわ」

これは又、何と由緒正しい言葉遣いであることか。その声音までも鮮に記憶しております。それは例えて言うならば、飛鳥の頃の紫野を吹き抜ける三月の風のようにした。

ほくが森社長に会う機会は、そんなに多くありませんが、会えば必ず、ほくに訓示を垂れるのです。

以前ほくが中高ビ在籍中はこんな調子でした。「いくら協同組合のため良かれと思っても、やり過ぎたらいかんよ、敵を作るばっかだがね」つまり常識人森は非常識人島の身を案じて呉れているのです。

これもあれも、ほくが一生懸命であった証しであり、そんな未熟なほくに森松も一生懸命付き合っただけならばこそ、シマヤにとって森松は主力仕入先であり続けたのです。そしてもう一人あの時の少女も。ほんとい生懸命の三十年でしたね「紫経理部長どの」。

暮らしてのエッセイ 今という時間

今まで、又これから流れる時間の中で、いつたい時間というものを考え直した事があるだろうか。あったとしても、それはその場の出来事にすぎない。

今という時間はほんの数分、数秒かもしれないが、その時間を有効に活用する大切さを常にもちつけている人は何分の一の確率にすぎないと思う。

いかに有効に活用するかは、おのずとその人の個性から生じてくる。個性をみかくことによつて、その人の価値というものが生じるのではないか？

時間を有効に活用すれば、おのずと道はひらかれるものではないでしょうか。

皆さん、考えてみませんか。

西脇 修

編集後記

早く暖かくならないかなと思う今日のごろです。夏が来ると私は二十歳になります。今年には私にとつていろんな意味で成長の年だと思つています。二十歳というところで特別な思いがたくさんありますが、自分らしさを忘れないで、いろんな人の意見を聞き入れ、プラス思考と向上心で大きく成長していきたいと思つます。

やりたいこと、知りたいことがたくさんあります。いろんなことに挑戦し、自分を大きくしていきたいです。

坂柳 夕里

編集発行者 森松株式会社  
発行責任者 谷澤 享子  
円道 陽子  
平成5年3月1日 第93号